

Jazz Interview Vol.6

無敵の INST JAZZ BAND !

PE'Z

昨年9月に世界進出への決意を表明して以来、イギリス～オランダ～カナダ～韓国、そして、今年3月からのアメリカ・ツアーと意欲的に海外活動を行っているPE'Z。4月6日よりスタートした春の全国ツアーも大成功を収め、7月19日には初のカヴァー・アルバムとなる『日本の名曲～SAMURAI SPIRIT～』をリリースしたばかり。そんな5人のサムライたちを率いるリーダーOhyama "B.M.W" Wataruに直撃した！
(2006年7月7日 ロードランナー・ジャパンにて) 取材 & 文：加瀬正之

☆今年3月からスタートしたPE'Z初のアメリカ・ツアーについて

テキサスから始まって、ニューヨーク～ボストン～フィラデルフィア～シカゴ～デンバー～シアトル～ポートランド～サンフランシスコ～ロサンゼルスと各地でライブをやりました。最初のテキサスでは「SXSW (サウス・バイ・サウス・ウエスト)」をはじめ、2公演とストリート・ライブ3回の計5回公演、ニューヨークとロサンゼルスでは「ニッティング・ファクトリー」でもやりました。今回はくくりがロックのバンドだったので、ライブ・ハウスやバーでのライブばかりで、本当はフィラデルフィアにしてもジャズの歴史がある街なので、ジャズのハコも見てみたかったし、そういう場所でもやりたかったですけど、その部分は少し残念でした。

☆アメリカ・ツアーの手応え

反応は凄く良かったです。曲の並べ方とか音楽で、自分なりにお客さんをごいう風にと持っていくという仕掛けをいろいろと作るんですけど、アメリカは特に自分たちの仕掛けにちゃんと反応してくれるんです。自分たちの音楽をちゃんと認めてくれた場合に限りですけど、それが上手くいった時の盛り上がりは凄く気持ちいいですよ。音楽的なものの理解があるって感じがありました。7月にリリースされるDVD「[美] 其の2-KIZASHI 2 ～ 献5少年漂流記～下巻」* (9月13日発売) には、今回のアメリカ・ツアーでのライブの映像もたくさん入っていますけど、ライブの映像がメインではなくて、ツアー中のくだらない内容(笑)なんかも含まれていて、ちょっと嬉しい内容だと思います。

【*『上巻』は、7月19日発売！】

☆一番印象に残った場所はどこですか

ライブに関しては、僕自信の思い入れもあるニューヨークです。ニューヨークではこれまでレコーディングなどでしょっちゅう行ってはいたんですけど、ライブというのは初めてだったし、仲間や知り合いもいっぱいいるんですけど、今まで自分たちのライブを見てもらう機会がなかったんで、今回やっとそれが実現できてもの凄く嬉しかったです。特にニューヨークでは、長期間滞在して本気でやってみてみたいな気持ちがあります。あと、いろいろな所を回った中で、特にポートランドなんかはニューヨークとかロサンゼルスとかと比べると本当に田舎なので、そういう街で演奏しているっていうことが何か不思議な気持ちでした。アメリカ以外では、ツアーでの反応ややりがい、気持ちの部分で、イギリスやオランダも相当良かったですけど、イギリスにしてもオランダにしても、一回行ってちょっと演奏しただけじゃまだまだ分からない部分もあるので、もっとじっくり見てみたいです。

☆次回海外ツアーの予定

まだ具体的にはないんですけど、次の時には今回よりもいいものをやりたいですね。回数の問題だけではなくて、もうちょっと身になるツアーをやりたいと思います。今回はロック・バンドのくくりとかいうか、「ジャパン・ナイト」みたいな感じで団体で行ったんですけど、「ジャパン・ナイト」みたいなのは嫌なんです。何も借りないで「PE'Z」として、まっさらな状態で演奏してみたいですね。ヨーロッパの方はそうやって出

来たんで、次回はアメリカの方もそういう形で行ってみたいです。今後も日本でのツアーは当たり前に行っていくと思うんですけど、海外の活動がどのような形になっていくかはまだ分かりません。フランスとか、ドイツ、スペインなんかも特に行ってみたいです、やっぱりヨーロッパ・ツアーは行ってみたいです。

☆ストリート・ライブ！

日本ではもうやらないかも知れないですね。ストリートは海外でもPE'Zを知っている人がいない所でやりたいういう思いは強いですから。日本でもまだPE'Zを知らない人だらけだと思うんですけど、多少知っている人が来てしまうと、新鮮な反応が望めないって気がしてしまっます。

☆新作『日本の名曲～SAMURAI SPIRIT～』について

海外での活動で感じた思いや、去年31箇所45公演まで45曲カヴァーするという企画の全国ツアーがあって、それでカヴァー・アルバムっていうのもありかかっていうヒントにはなっていないんですけど、そのツアーで演奏した曲の中から選んだのではなくて、アルバムを作る時に全部考え直して、今回はちゃんと日本の名曲であるということと深く考えてやろうということになったんです。選曲については、全部僕が個人で選びました。自分たちの親の世代や年輩の人に向けたアルバムということに関しては、特に何か事件があったということではないんです。例えば、PE'Zのライブを見に来てくれる若いお客さんの中でも、自分たちの親を連れて見に来てくれたりするので、そういう光景を見ると凄く嬉しいんですね。ステージの一番前でもお母さんを連れて来て、一緒に大騒ぎして楽しんでくれたり、そういう光景をもっと見てみたいなあって思います。年齢がすごく離れている人たちが一緒に曲を楽しんでいるという空間や雰囲気というのは凄くいいなって思っています。この先そういう風にしていくということではないんですけど、今回のアルバムに関して日本の名曲をやるっていうことで、そういう意味でもあまり新しいものにはななかったんです。

☆今回初のカヴァーで苦労した点は

カヴァーなんで、その曲に対しての愛というものが当たり前になりにくいし、それが曲に出なきゃ意味がないんですけど、アレンジをするということは元の曲を変えちゃうということなので、変えることによってこっちの愛情が消えていったりとか、その愛情が邪魔じゃなかった愛情にならなかつたりとか、その辺のバランスが凄く難しくなりました。上手い曲も難しかった曲もありますけど、特に難しかったのは「花」ですね。曲の持っているイメージがあるし、アレンジによって曲の持つ意味が変わってきてしまうのは、あまり嬉しくないですからね。この曲はアレンジが上手いしなくて、「ちょっと今回は…」っていう感じになりかけたんですけど、どうにか12曲入れました。でも、リー・モーガンが「月の砂漠」*をやったじゃないですか。あの感じっていうのは自分でも忘れられないので、今回凄くいいヒントになりました。

【*リー・モーガンのアルバム『ザ・ランブローラー』(TOCJ-6498)に収録。ファンキーで歌心溢れる最高の名演です！】

☆カヴァーの第2弾は考えていますか

具体的な話はまだないんですけど、希望はありますね。今回凄く楽しかったし、アレンジをするだけでも演奏でも、自分たちもこういうことができるということが分かったんで、もうちょっといろいろ考えてもっと面白いカヴァーをやりたいと思います。

☆ジャズとの出会い

7歳か8歳の頃に、家族で斑尾高原に旅行に行ったんですけど、その時にたまたまジャズ・フェスをやっていて、山の上から眺めていたら、プロデューサーの人が「中に入りなよ」って自分たちに招待券をくれたんです。それがジャズとの最初の出会いです。家でもマイルスのレコードがかかっていたりして、そのうちにトランペットを始めるようになったんです。小学校の高学年の頃には、当事故竹の勢いで人気急上昇だったフュンク・マルサリスにはまって、もう少し大人になってから、結果的にリー・モーガンにたどり着いたんです。でも、歌謡曲とかは普通に大好きだったし、中学・高校になると洋楽のロックとか好きだった友達の影響で、ビートルズとかいろいろ音楽を聴くようになりました。子供の頃はジャズはやっぱり聴い



ていましたね。特にリー・モーガンが好きだったから、ジャズ・メツセンジャズは大好きです。最近はいPodっていう素敵なものがあるので、大好きなジャズを入れて毎日かけっぱなしです。あとは、サザン*を聴いてますね。

【*Ohyama "B.M.W" Wataruは、サザンオールスターズの桑田佳祐さんと同じ神奈川県茅ヶ崎市出身！】

☆PE'Z 結成前の活動

最初にバンドを組んだのは高校卒業してからで、ホーン・セクションが入ったパンクとポップが混ざったみたいなバンドでした。オリジナルをやっていたんですけど、とにかく曲を作るってことがやりかたかったですよ。カバーをやっていた頃もありましたけど、バンド作ったら自分で曲を書きたいという思いがありました。で、その頃のバンドの手伝いでキーボードを弾いてくれたのがヒズミ(ヒズミマサユキ) だったりするんですよ。その時、彼は高校生でしたね。それと、一年間で辞めちゃったんですけど、音楽大学に通っていた頃の友達や友達とか結構いろんなバンドとの繋がりがあって、学校とは別に地元仲間バンド組んで、東京のライブ・ハウスでやったりしました。他のメンバーもPE'Z 結成前は学生だったりしたんですけど、ベースのニレ(Nirehara Masahiro)はジャズ研に入っていたり、ドラムの航さんなんかはスタジオ・ミュージシャンとして活動していたし、サックスのカドタ(Kadota "JAW" Kousuke)は、俺がPE'Zを組む前のバンドと一緒にやりました。そういう広がりの中でみんなそれぞれいろんな活動をしていましたね。

☆今後のPE'Zの活動について

目の前のことがいっぱいあって、あれやってみたいこれやってみたいというのはあまりないんですけど、より世界を広げたいかと思っています。でも、曲を作るということに関しては、基本的に一日中縛られて何年もやって来ているので、もっといい曲をたくさん作りたいです。次のアルバムに関しての具体的な話はまだですけど、曲は作っています。俺自身はPE'Z以外の活動には全然興味はないんですけど、他のメンバーに関しては、将来的にPE'Z以外の活動で、もしPE'Zでは絶対できないことならやるべきだと思うし、制限するつもりはないですね。夢は絶対持っている方がいいんで。

☆現代の日本のジャズ・シーンについて

ちょっと寂しいのは、ジャズ・シーンが無くなっちゃっているって感じがするんです。何か聴く側の心の変化もあるとは思んですけど、演奏する側にもちょっと問題があるのかなって思います。音楽をつまらなくしてしまっているっていう感じがしますね。自分たちはそういう日本のジャズ・シーンをぶち壊しているような存在で凄く申し訳ないんですけど、音楽をやっている人間としての楽しさだったり、心の温かさみたいなもの、パワーや情熱っていうものがあまり感じられないというか、今の時代の日本では難しいのかなと思うんですけど、全部ではないですけど、ニューヨークのジャズ・クラブなんかに行くと、お客さんがみんな立ち上がって踊ったりして、凄く楽しそうなんです。自分たちはジャズをやっているって意識は元々ないんですけど、同じくらいお客さんを楽しませたい、感動させたいって気はあります。だからジャズ・シーンでも同じような気持ちでいる人がもっと出て欲しいなあと思っていますね。

☆ファンへのメッセージ

新作『日本のジャズ～SAMURAI SPIRIT～』は、PE'Z などのジャズというものをテーマにして作ったアルバムで、心がふっと温かくなるようなシーンがいっぱいあるので、是非ゆっくりと聴いてもらいたいですね。特に若い人は自分の親に聴かせてあげてください。

【2006 夏フェス出演】

- 8/5 「SUMMER GROOVE IN NOBEYAMA 2006」
- 8/9 「RISING SUN ROCK FESTIVAL KICK OFF PARTY」
- 8/12 & 13 「SUMMER SONIC 2006」
- 8/18 「RISING SUN ROCK FESTIVAL 2006 in EZO」
- 8/25 「FM 福井へビロスタイル DX BEAT PHEONIX」
- 8/26 「MONSTER baSH2006」

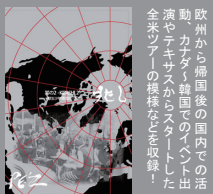
【PE'Z REALIVE 2006 秋～善 AKANE～】

- 10/18 & 19 @ OSAKA Blue Note
- 10/23 & 24 @ 渋谷公会堂
- 11/8 & 9 @ NAGOYA Blue Note
- 11/11 @ supper club 太宰

詳しくは公式ページ【<http://www.worldpart.co.jp/pez/>】にて



あし 其の2-KIZASHI 2～ 獣五少年漂流記～下巻
APDV-0002 ¥4,800 (tax in) Now On Sale!



あし 其の2-KIZASHI 2～ 獣五少年漂流記～下巻
APDV-0003 ¥4,800 (tax in) 9/13 In Stores!

欧州から帰国後の国内での活動や、ライブ・録音でのイベント出演や、ライブからスタートした全米ツアーの模様などを収録！

PE'Z が贈る “日本人の誇り”



日本のジャズ
～SAMURAI SPIRIT～

PE'Z 初のカヴァー・アルバム！

ロードランナー・ジャパン：RRCA-21027
¥3,000 (tax in)
Now On Sale!

【P12のジャズ新譜紹介コーナーもご覧下さい】